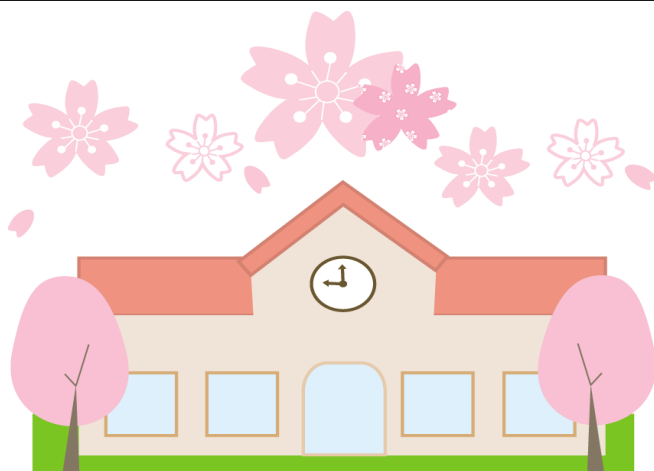


柏市版



令和7年度 架け橋期カリキュラム



この冊子のデータは
園の先生方は教育研究所 HP
から、小学校の先生方はデジ
タル校務ライブラリから
ダウンロードできます！



大切にしたいこと①

「学びの連続」を意識

これからの幼保こ小接続は、「小学校への順応」ではなく「学びの連続」を意識することです。実際の参観の様子から子どもの育っている姿を捉え、発達について考えたり、保育者・教師の関わり方について語り合ったりすることが大切になります。

幼児教育と小学校教育がつながるって
どういうこと？



	これまで	これから
目的	小学校への順応	学びの連続
内容	交流活動	カリキュラム編成
期間	数か月	2年
実施単位	施設単位	地域単位

※地区別連絡会等の話し合い

大切にしたいこと②

「共通シート」を活用

「学びの連続」を意識するため、柏市版架け橋期カリキュラム共通シート（枠）を作成しました。幼保こ小連携において、園と小学校がそれぞれのカリキュラム（現時点までに行ってきた活動やこれから予想される活動）を可視化して語り合うことが大切です。

架け橋期カリキュラムのねらいについては、柏市幼児教育実践研究テーマより設定しています。柏市では、幼稚園・保育園・こども園の全園で、共同研究を行っており、園が大切にしている「伝え合いを楽しむ子」を小学校でも引き続き大切に育てていきたいと考えます。

共通シート（活用例）を参考に
共通シート（枠）を使います

Figure 1 shows two curriculum sheets for 'Sharing Joy in Learning' from elementary schools. The left sheet is titled '柏市版「架け橋館カリキュラム」共通シート（活用例） 小学校区 園名（ ） 第1学年' and the right sheet is titled '柏市版「架け橋館カリキュラム」共通シート（活用例） 小学校区 校名（ ） 第1学年'. Both sheets are for '小学校区' (Elementary School District) and '第1学年' (Grade 1). They show a timeline from April to March, with various activities and themes. The right sheet includes more detailed descriptions of activities and a section for 'Sharing Joy in Learning'.

大切にしたいこと③

保育者・教師の「対話」

年3回(2回)の幼保こ小の授業参観・保育参観では、「伝え合いを楽しむ子を育てる」という共通の視点をもって、参観者同士で積極的に交流を図りましょう。

参観後の協議会では、以下の流れでグループワークを取り入れてみましょう。

- ① 参観した子どもの姿から「伝え合いを楽しんでいるな」と思ったエピソードを思い浮かべる。
- ② そのような子どもの姿は、どのような環境や援助によってみられたのかグループで考える。
- ③ グループで考えたことを全体共有する。
- ④ 共有したことを踏まえて、今後のカリキュラムを見通しつつ、どのようなことを大切にしたいかを各校各園で考える。

保育者と教師が対話を通してつながり、「その活動おもしろそう!」「子どもってすごい!」という思いを育みながら、各園と各小学校の架け橋期カリキュラムが充実することを期待します。

《 目 次 》

付録 大切にしたいこと	—— 付録1
Ⅰ 架け橋期カリキュラムとは	—— 1
Ⅱ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	—— 2
Ⅲ アプローチカリキュラム	—— 4
1 小学校の学びの基礎となる幼児期の姿	…… 5
(1) 系統	
(2) 幼児期の経験	
2 エピソードから見る幼児期の姿	…… 10
Ⅳ スタートカリキュラム	——18
スタートカリキュラム 編成のポイント	…… 19
(1) 人間関係づくり	…… 20
(2) 時間割の工夫	
①生活科と合科的・関連的に扱える各教科の活動例	…… 21
②柏市版スタートカリキュラム単元	…… 22
③学習予定・環境構成・資料等	…… 23
④単元の主な活動展開	…… 30
(3)「勉強したい！」子どもの思い	…… 38
Ⅴ 幼保こ小連携	—— 41
1 柏市の幼保こ小連携	…… 42
2 幼保こ小 連携活動例	…… 43
3 幼保こ小 交流会計画例	…… 44





I 架け橋期カリキュラムとは



幼保こ園と小学校の段差を滑らかにする

令和4年3月に文部科学省より「幼保小架け橋プログラムの実施に向けての手引き」が策定されました。そこに明記されているように、5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な「架け橋期」になります。

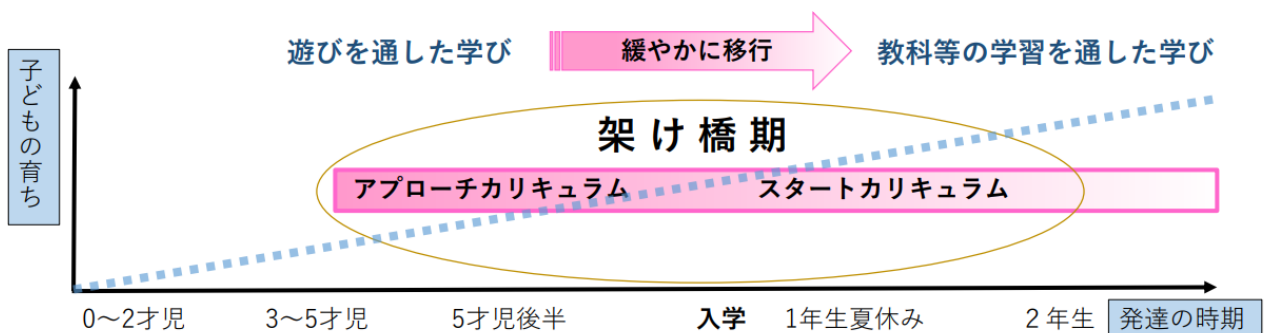
この「架け橋期」の教育については、幼稚園・保育園・こども園と小学校（幼保こ小）の多様な施設がそれぞれの役割を担っています。また、幼児期の3要領・指針や小学校学習指導要領には幼保こ小連携・接続強化について明記され、子どもの成長と学びの連続性、一貫性を考慮した教育の必要性が示されています。

しかし、小学校入学時、「教室にはさまざまな種類のおもちゃや絵本などが常備されている園」から「机といすが整然と並んでいる学校」、「子ども一人一人が自由に活動できる時間の多い園」から「時間割に従って行動する学校」など、自分主体の活動から規律のある集団での活動へ、その変化に子どもたちは戸惑います。

だからといってこのような入学時の段差を全て取り除くのではなく、子ども自身の力で乗り越えられるように、「架け橋期」を通じて小学校の生活を徐々に考えさせていくことが重要です。また、幼児教育を通して育成してきた資質・能力に基づく幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（P2～3）を発揮できるようにして、それをさらに伸ばしつつ、教科等の学習へつないでいく「架け橋期カリキュラム」が求められます。

アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム

「架け橋期カリキュラム」は、園による「アプローチカリキュラム」と小学校による「スタートカリキュラム」から構成されます。「アプローチカリキュラム」は幼児期の学びが小学校の生活や学習で生かされてつながるように工夫された5歳児のカリキュラムです。「スタートカリキュラム」は、小学校へ入学した1年生が小学校の生活や教科の学習に円滑に移行していくことを目指して編成されたカリキュラムです。





Ⅱ 幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿

現在、幼児期の3要領・指針や小学校の学習指導要領には「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」が明記されています。

次に示す一覧は、この10の姿について子どもに学びや生活の基盤が育まれていく過程で見られる具体的な姿を示したものです。同時に、それらを育む先生が「こういう姿を目指してほしい」と教育上の思いや願いをこの10の姿に照らし合わせながら、一人一人の子どもの様子を見定めていくものでもあります。

そのようなことを通して、子どもの学びや生活の質を捉えてどのように育っているかを見出したり、子供の実態に沿った学びや生活の実現を図ったりすることができるのです。

そして、ここで示された姿は、架け橋期はもとより、その前の時期、さらにその後の学びのプロセスの基盤にもなっていきます。この10の姿を手掛かりに、施設類型・設置者・学校種を越えて幼保こ小の先生方が滑らかな接続を意識した対話を大切にし、未来を担う子どもの学びや生活の基盤づくりを協働して取り組んでいきましょう。



幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿

スタートカリキュラムにつなげる

